

# 『ごみ処理広域化』は白馬村にとって“プラス”か“マイナス”か？

**7月8日開催**  
白馬商工会大会議室

去る6月25日に、白馬村主催の「ごみ処理を考える住民懇談会」が行われました。「広域化」へ賛成意見は2-3割ほどで、反対や慎重に検討をやり直す等の意見が、7-8割ほどであったように感じられます。(村は、出席者からの要請によって、懇談会を再度開催すると表明しています)

「大町が建設費の5年分を負担する」等の前提条件が無くなり、焼却ごみの減量化の目標も既に達成され、施設の規模縮小等も「再検討」する必要が生じています。

また、地球温暖化が進む中。～子どもや孫たちが安心して暮らせる地球環境～を守って行くために、循環型社会や温室効果ガスをなるべく出さない社会を「具体的・効果的」に進めて行かなければなりません。

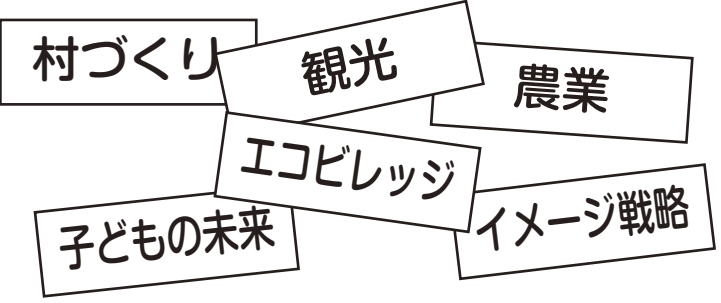


「ごみ処理場」が単に目の前から「ごみを無くす(焼却)」ための物でなく、「4R(リフューズ～不要な物は買わない・断ろう!。リデュース～ごみを出さない。リユース～繰り返して使う。リサイクル～資源として再利用。)を推進する」ための施設として考え直す必要があるのではないのでしょうか？

ということは、私たちの生活にとっても身近な問題となり、住民・行政・企業が手を取り合って「ごみ処理のあり方」を考えた上で、問題となっている「ごみ処理広域化」を再検討する必要があります。

今回は、「ごみ処理広域化基本計画」(H17.3策定)を元に、勉強したいと思いますので、大勢の方のご参加をお待ちしています。

●白馬村環境課長も出席！  
大変有り難く思います。  
ようやく話し合える場が  
できつつあるのかなあ！



<http://hakuba-kaeru.com/>

日程：7月8日(水)  
時間：午後7時～9時  
場所：白馬商工会 2F 大会議室  
主催：白馬新ゴミ処理施設を考える連絡協議会  
参加費：無料(カンパ大歓迎!!)

**次回予定**

『ごみ削減目標と計画』を住民で作ろう！  
日時：7月23日(水) 19:00～21:00 場所：白馬商工会 2F 大会議室

白馬村は、先月25日に行った住民懇談会で、多数の住民から懇談会の継続要請を受け、もう1回開催することを表明。7月11日(土)午後3時～5時。役場2階

～1回と言わず、もっと話し合える場を！

## 焼却「ごみの減量」を進めるのに「広域化」がふさわしいか？

現状の「ごみ処理施設基本計画」(H19年3月策定)のまま進めば、

**「生ごみ」「紙類(新聞や容り法の紙、雑がみ)」「ビン類」「白トレー」「古着」「乾電池」「不燃性粗大ごみ」は、白馬村で処理する事になります。**

※「紙類(新聞や容り法の紙、雑がみ)」「ビン類」は、持込分は新施設にて保管

広域で推進しを希望して「ごみ減量」を進めたい人は、このことに気付いていますか？

焼却ごみの割合の中で多いのが

「紙類：約40%」「生ごみ：約20%」です。

広域化を進めるとしても

「ごみ処理施設基本計画」をはじめから作り直す必要があるのでは？

それとも、「ごみ減量」を無視して建設場所のみを検討し直すの？

## 経済的に「広域化」が最もふさわしいは「本当か？」

①大町市が建設費を多く負担する(5年間の保証分)ことは、白紙に戻った

↑大町市や議会・市長がそう明言しています。

②白馬山麓センター(現施設)の解体費を、大町市が負担する。

※解体費は数億円。はっきりと分かっていないようです。

↑こんな取り決めは「大町市」としては行っていません。

③村長が必要とする「リサイクルセンター」の建設費(3億円)を、大町市が負担(一部)。

↑白馬村長は「大町の分別方法に合わせる」と言及。

となると「分別されていないごみを分ける分別施設は不用」

↑なので、大町市はその負担をしない(負担する必要がない)。

**「白馬村には、大町市は原点に戻って検討する」**

**「大町市はその費用を持たない」と**

**大町市は白馬村の担当部局に申し入れました。**